

道徳科における「言語能力」の整理

道徳科における言語能力		
【思考力, 判断力, 表現力等】 多様な感じ方や考え方に接する中で, 考えを深め, 判断し, 表現する力などを育むことができるよう, 自分の考えを基に話し合ったり書いたりすることができるようにする。		
第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
○課題発見		
教材文を読み, そこに含まれるよさやわるさを見つけること。	教材文を読み, そこに含まれる道徳的問題場面に気づき, 課題を考えること。	教材文を読み, そこに含まれる道徳的問題場面に気付くとともに, 自分との関わりの中で課題を考えること。
○話し合い		
自分の考えと友達のことを比較しながら話し合うこと。	話し合う中で異なる考えに接し, 物事を多面的・多角的に考えること。	話し合う中で物事を多面的・多角的に考え, 協働的に議論すること。
○書く活動		
書こうとすることを明確にし, 目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに, 事実と感想, 意見とを区別して書いたりするなど, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
○考察		
学習したことを, 自分の体験したものと重ね合わせながらまとめること。	学習したことを, 自分の考えや友達との考えと関連付けながらまとめること。	学習したことを, 自他の考え, 道徳的諸価値のよさから総合的にまとめること。

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①教材文を読み, 道徳的問題場面から課題を見いだすこと。	・学習課題を, 児童と共につくる。	・教材文を読み, 教材に含まれる道徳的問題について整理し, 課題を決定する。
②自分の考えと友達のことを比較しながら話し合いをすること。	・意見の共通点や相違点を明確にしながら話し合う。 ・少数の意見も大切にし, 多様な意見のよさを認めながら話し合う。	・自分の考えと友達のことを色分けして比較させる。 ・思考ツールを用いて, それぞれの意見の良さや違いを視覚化する。
③自分の考えを, 理由や事例を明確にしながらかくこと。	・教材の登場人物の行為や, 自分の経験を根拠にしながらかく考えを書かせる。	・理由が明確になるような切り返し発問を活用する。 ・ノートに自分の考えとその根拠を書かせる。
④学習したことを, 自分の体験や友達の意見などから総合的にまとめること。	・本時の学習の流れをまとめ, これからの自分に生かせそうなことを考えさせる。	・板書を構造化し, 出てきた意見の一つ一つの意味を理解できるようにする。

小学校第2学年1組 道徳科学習指導案

1 主題名 きまりって なんのため？【C-(10) 規則の尊重】

2 教材名 「オレンジ色の木のみ」(新・みんなのどうとく2 学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとなる価値及び教材について

皆が気持ちよく過ごすための基本姿勢として必要な「きまりや約束を守り、みんなが使うものを大切にすること」に関する内容項目である。規則とはルールや約束事のことであり、これを守らなければ周囲が不利益を被るという場合に設けられるものである。社会生活の中には様々な規則が存在する。低学年期の児童は、自己中心性が強く、自分勝手な振る舞いからきまりや約束が守れず、人に迷惑をかけてしまうことが多い。だからこそ、一人一人が自分を振り返りながらきまりや約束の意義を考え、自分勝手な行動を慎み、皆で使うものを大切にしようとする態度を育てることが重要である。

本教材は、子鹿の言動から、規則遵守の意義について迫るものである。鹿たちは、秋に美味しいオレンジ色の実を食わせるために「この木の葉を食べてはいけない」という約束をしている。子鹿たちはその約束について強く言われているにもかかわらず、おいしそうに葉を食べてしまう。そんなことを毎日続け秋になった頃、オレンジ色の木の実は1つもならなかったという話である。約束を知っていたものの、それを破って木の葉を食べた子鹿の姿から、我慢して約束を守ることの難しさについて共感させることができる。木の実がならなかったことから、約束を破ることが周囲の不利益につながることを実感させることができる。本教材はきまりや約束を守る意義について考えるのに適した教材だと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、きまりを守ることは重要であり、守らないことで周りに迷惑をかけることがあるということを理解している。きまりを守らずに自分勝手に行動している友達がいれば、注意をしたり、正しい行動を促したりしている姿をよく見かける。しかしながら、まだ自己中心性が強く、夢中で遊んでいて片付けを忘れてしまっていたり、室内ではしゃいで人とぶつかってしまったりと、分かってはいても実践することが難しい児童が多いという実態がある。特に自分がしたいことがある場面では、自分の欲求のままに行動してしまい、周りの人が迷惑に感じていることに気付かないでいることも多いのが実態である。今後は、きまりを守ることの大切さを理解するとともに、夢中になっているときこそ周りに迷惑がかかっていないかどうかを確かめようとする判断力や、みんなのよりよい生活のためにきまりや約束を守ろうとする態度を養っていく必要があると考える。

(3) 指導について

指導にあたっては次の4点に留意する。1点目は人間理解を大切にすることである。約束事を守れなかった時のことを想起させ、どうして守れなかったかということ共感的に理解できるようにすることで、本時の学習内容と実生活を関連付け、自分事として学習に向かえるようにしたい。2点目はテーマ設定である。教材を読んだ後に、教材の中にある道徳的問題場面について考え「何がいけなかったのか」を引き出す。その中で、自分達なりの本時で考えるテーマを見付け、解決する流れを作りたい。さらに「どうしてそうなったのか」「どうすればよかったのか」について話し合う中で、自分の納得いく解決方法を探れるようにしたい。3点目は振り返りの焦点化である。本時の学習を通して、自分のこれからの生活に生かせそうなことはないかを問う。そうすることで、本時で取り扱った道徳的価値と実生活をより結び付けるとともに、日常生活での道徳的実践につながるようにしたい。4点目は、教師の切り返し発問である。授業全体を通して児童の発言をつなぎ、問い返し、揺さぶることを通して、道徳的実践の価値に納得し、日常生活と重ね合わせて考える児童の姿につなげたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

みんなのものを大切にし、他人の迷惑にならないように生活することがよりよい生活につながることに気づき、きまりや約束を守ろうとする態度を育てる。

(2) 評価（個人内評価）

日常生活で守るべききまりや約束を想起し、それを守るために大切なことを考えている。

(3) 「道徳科における見方・考え方」を働かせるための手立て

本時において「見方・考え方」を生かしている姿を「自己を見つめる姿」と捉えている。教材の内容を自分と重ね合わせたり比較したりしながら、自己の生き方について考えられるよう問いかけていく。

(4) 展開

学習活動と児童の反応 (□□□)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 きまりや約束について話し合う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろうかを歩くこと。 ・時間を守って行動すること。 ・急いでいるときに守れないことがあるな。 ・自分のしたいことに夢中になっているときは守れないことがあるよ。 <p>2 「オレンジ色の木のみ」を読んで考え話し合う。(20分)</p> <p>(1) 何が問題なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーくんたちがきまりを守らないで葉っぱを食べちゃったのがだめだと思う。 ・友達がしているからしていいわけじゃないよね。 	<p>1 「あなたが普段守ろうとしているきまりは、どんなことでしょうか。」</p> <p>きまりを守れなかったときのことも取り上げ、認めることで、分かっているもついやってしまう人間の弱さに共感できるようにする。</p> <p>2-(1) 「このお話の中で気になるところはありますか。」</p> <p>教材に含まれる道徳的問題場面に着目し、本時のテーマにつなげられるようにするために、児童同士の対話を促し、共通理解できるようにする。</p>
<p>どうしてきまりややくそくがあるのだろう。</p>	
<p>(2) どうして葉を食べてしまったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしそうだったから。 ・少しくらいなら食べてもいいと思ったんだよ。 ・友達をみてうらやましかったんだと思う。 <p>(3) この後、鹿たちはどうなったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながっかりしたと思う。 ・木の実を食べられなくて、冬は大丈夫だったかな。 ・子鹿たちもすごく悲しかったと思うよ。 ・お父さんやお母さんも悲しかったと思う。 	<p>2-(2) 「どうしてマーくんたちは木の葉を食べてしまったのでしょうか。」</p> <p>子鹿たちと自分たちを比較させ、共通点を探ることで、自分事として考えられるようにする。</p> <p>2-(3) 「お話の後、鹿たちはどうなったでしょう。」</p> <p>鹿たちと、自分の周りの人達とを重ねて考えることで自分事として考えられるようにする。</p>
<p>◆ きまりや約束を破ってしまう心の弱さと、約束を破ってしまうことによって生じる周囲への不利益を結び付けて考えている。</p> <p>→ 「少しくらいなら食べてもいいのでは」と揺さぶり、きまりや約束を破ることについて再確認できるようにする。</p>	
<p>(4) 子鹿たちはどうすればよかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我慢して葉っぱを食べなければよかった。 ・みんなのことを考えたらよかった。 <p>3 約束を守るために大切なことを考え、話し合う。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えるのが大切だよ。 ・したいことをがまんするのは大変だなあ。 ・どうなるか考えて行動しないといけないと思う。 	<p>2-(4) 「子鹿たちはどうすればよかったでしょう。」理由も併せて問うことで、きまりや約束を守るのはどうしてか、考えを深められるようにする。</p> <p>3 「約束を守るために大切なことは何でしょうか。」自分たちの生活と重ね合わせて考えるよう促すことで、自分自身の問題と捉え、きまりや約束を守ることは、みんながよりよい生活を送るために必要なことだと気付けるようにする。</p>
<p>自分もまわりの人も、気持ちよくすごすため。など</p>	
<p>4 本時の振り返りをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守らないとみんなが迷惑すると思った。 ・これからはみんなのためにきまりを守りたい。 	<p>4 「今日学んだことを振り返りましょう。」</p> <p>これからの自分に生かせそうなことを考えることで今後の実践につなげられるようにする。</p>

授業の実際と考察 ～第2学年「きまりって なのため？」の実践を通して～

(1) 児童自ら課題を発見する手立て

本時では、導入段階で、自分たちの生活経験を想起させた。具体的には「普段守ろうとしている約束やきまりはどんなものか」「まもれないときはあるか。また、それはどんなときか」という2つの発問である。図1の左側に児童から出てきた言葉をまとめている。そのようにして自分たちの経験を十分に想起させたうえで教材文を読み、教材に含まれる道徳的問題と関連付けて考えられるようにした。そして「今日は何について話し合いたいですか。」と発問することで、経験と教材とを重ね合わせながら、自分事の課題を考えることができていた。本時では「きまりをまもるのはどうして大切なの？」や「どうしてやくそくやきまりを守らないといけないの？」などの言葉も聞かれたが、児童の声の中で最も多かった「どうすればやくそくやきまりをまもれるの？」を、本時の課題として位置付けた。

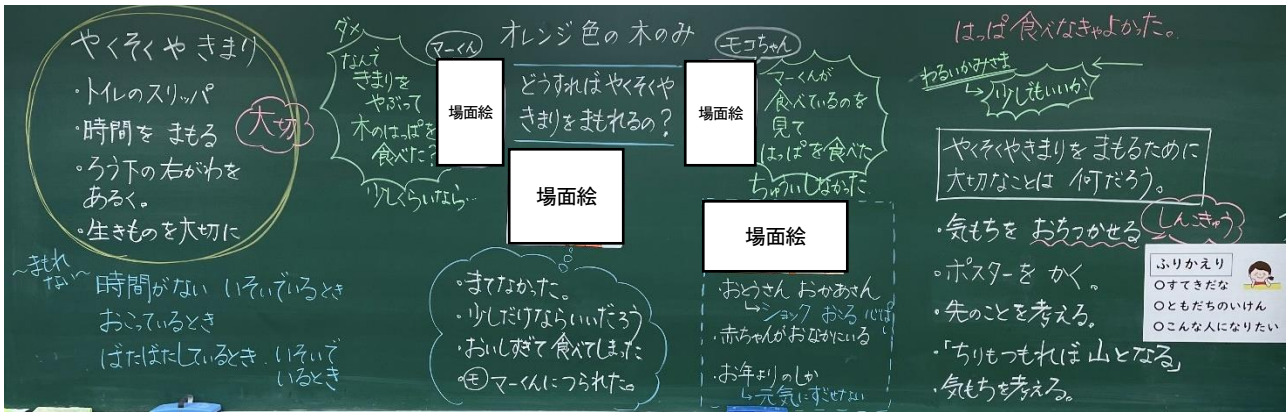


図1 本時の板書

(2) 自他の意見を比較しながら考えさせる手立て

本時では、隣の友達と考えを交流したり、席を離れて色々な友達と話し合ったりして、他者の意見に広く触れられるようにした。また、ノートに自分の意見と友達の意見を書いたり(図2)、似ている意見の友達を探したりするよう促すことで、比較して考えることを意識できるようにした。そうすることで、児童は自他の意見を比較しながら考え、よりよい課題解決に向かうことができた。

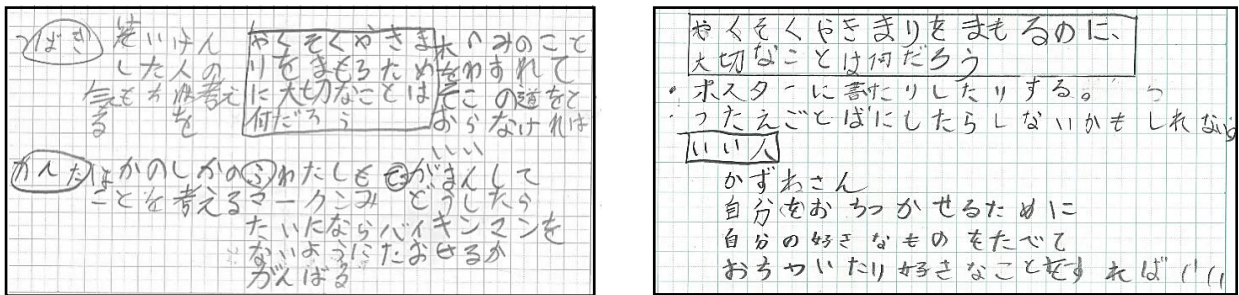


図2 児童のノート

(3) 自分の考えを、理由や事例を明確にしながらまとめる手立て

児童の意見に対してただ板書に羅列するだけでなく、それぞれの意見に対して適宜問い返し、つなぎの発問をすることで、意見の理由や具体的な経験を引き出せるようにした。そうすることで、個の学びを全体で共有しつつ、理由や事例を明確にしてまとめることができた(図3)。

T	やくそくやきまりを守るのに、大切なことは何でしょう。
C1	気持ちを落ち着かせるのが大切だと思います。
T	どうしてそう思ったの？
C1	落ち着いてから考えたら、しちやいけないことが分かるから。
T	そうなの？(うなづく児童)
	じゃあどうしたら落ち着けるかな？
C2	深呼吸したらいいんじゃない？
C3	僕も深呼吸するときあるよ。
C1	何か他の好きなことをしたら、落ち着くと思う。

図3 児童の発言と教師の問い返し、つなぎの発問